



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ◇

日米合同教会の皆様 既にお聞き及びのことと思いますが、私は先月の理事会において、この7月末日をもって日米合同教会の牧師職を辞任させていただきたい旨お伝えしました。2006年の8月1日に就任しましたので、丁度5年間日米合同教会の牧師として奉仕させて頂いたこととなります。◆妻のエリザベスと私にとって、皆様と共に歩んできたこの5年間は、まことに意義深いものでした。フルタイムの牧師が見つかるまでの1年間、週20時間の契約でお引き受けしたのが、5年前であったことを考えると、月日のたつ速さを今更のように思い知らされます。◆私に託された責任は、教会を特に三つの領域において建て直すことでした。すなわち、聖書に基づく説教に力を入れ、礼拝を意味深いものにする、聖書の学びを提供することによって会衆の御言葉への渇きに応えること、牧師と会衆との関係を修復すること、この三つでした。◆この5年を振り返って、私は何とか皆様との三つの約束を果たすことができたのではないかと考えています。エリザベスと私は会衆の方々と共に教会生活をより充実したものにすることができました。そのことを思うと、私たちの心は神様への感謝、そして皆様一人一人への感謝の念で溢れます。◆飛行機の比喻を使って言えば、ソフトランディングに成功した日米合同教会は、空に向けて飛翔する時を迎えています。そのためには、新しい牧師の強力なリーダーシップが必要とされていることを私どもは強く感じるようになりました。この教会が未来に向けて飛び立つためには、教会生活のすべての領域でリーダーシップを取れる牧師が不可欠だと考えています。私はその必要性を出来得る限り満たしてきましたが、これからはより強力なリーダーシップを発揮できるフルタイムの牧師が必要とされているのは間違いありません。◆日米合同教会での任務を終えた後、私たち二人はフィラデルフィアから15分程のニュージャージー州側にある自宅で生活する予定です。今までよりも緩やかなペースで、近くの教会で説教したり、聖書の学びのお手伝いができればと願っています。◆この5年間の皆様と共に歩んできた体験は私たちの宝です。日米合同教会がこれからもこのニューヨークの地にますます深く根を張り、神の摂理の器として存在されるよう、心から祈る者です。

◇日曜礼拝説教より◇

■4月3日「見えないものに目を注ぐ」第1コリント人への手紙4章16節—18節 何年前か、私は病院で心臓の写真を撮ってもらったことがあります。しかし、心臓は見えても、私の魂は見えませんでした。当たり前のことです。しかし、そんなことは良く分かっている筈の私たちも、目に見えるものが全てだという錯覚に陥ることがよくあります。◆パウロは次のように言っています。「私たちは見えないものに目を注ぐ。見えるものは過ぎ去ってしまうが、見えないものは永遠に続くからである。」これがキリスト教信仰の大前提であり、それは神の恩寵、つまり、神の恵みです。この神の恵みは、イエスのかけている眼鏡と同じ眼鏡をかけた時に、私たちは良い時も悪い時も、喜びの時も悲しみの時も、私たちが導き給う神の御手をしっかりと見極めることができます。◆主イエスはこの点を次のような言葉で教えておられます。「空の鳥を見てごらん。野の百合を見てごらん。彼らは美しく、無邪気だ」。イエスの目で同じ物を見る時、肉眼で見る鳥や百合の花の背後に、慈しみ深い神の導きの御手が存在するという真実が見えてくるのです。◆現在日本はかつて経験したことのない大災害に直面しています。この状況を見る時、私たちは「何故神が造られた世界でこのようなことが起こるのだろうか」と問わざるを得ません。しかし、「ああそうか、成程」という理性を満足させる明快な答えは誰にも与えられていません。◆もし、私たちが見えるものにだけ目を注ぐなら、それで終わりです。地震や津波は前にもあり、これからも起こるに違いない。だから人間は自分や家族を守るためにただ我慢し、耐え忍んでいくしかない、という無常観が残るのみです。しかし、信仰の眼(イエスの目)で状況を見る場合、惨事が起こってしまった意味が分からなくても、この災害といかに取り組んだらいいのかという、「いかに」という問いには、神は明快に答えておられます。勇気を出し、助け合うこと、自分や家族だけのためだけでなく、他者と分かち合うこと、他者のために祈ることです。◆いかなる絶望も孤独も、死さえも、私たちが神の愛から引き離すことはできないのです。ですから、神から与えられた信仰の眼で「見えないものに目を注いで」生きていこうではありませんか。

■4月10日「ラザロ、出てきなさい」ヨハネ福音書11章38節—44節 マルタとマリアの弟ラザロは、不幸なことに病気にかかり、亡くなります。二人の姉は大いに悲しみ、主イエスにその悲しみを訴えます。二人の悲しみを真っ向から受け止めた主イエスは、ラザロが埋葬されている墓の前に行き、大声で呼びます。「ラザロ、出てきなさい。」すると、ラザロは、何と埋葬された時に巻かれた包帯を身体や顔に付けたまま、墓から出てきた、というのです。◆このエピソードは、主イエスと私たち人間の関係を明らかにする絵解きが目的なのです。イエスの時代において、墓はすべての人間の内面を埋め尽くす暗闇、つまり猜疑心、

憎しみ、自己中心性、怒りのなど、罪の象徴でした。このエピソードの最も重要な四つの点に要約すると、(1) 私たち人間は暗闇の中にいます。私たちの愛は狭く、自己中心的です。私たちは神を仰ぎ見ることをせず、隣人を愛することもしません。私たちは自分の幸せだけを考え、見知らぬ他者の善を願うことをしません。聖書の言葉を使って言えば、私たちは罪人です。(2) 主イエスは私たちを墓の暗闇から連れ出し、太陽が輝く世界へと導いてくださる、と言うのです。主イエスは自己の中に閉じこもりがちな私たちを他者に向けて解放してくださると言うのです。その意味で、主イエスは人間解放の主であり、救い主です。◆(3) 私たちは二つの選択肢の前に立っているということです。私たちは主イエスの、「ラザロよ、出てきなさい」という声に耳を傾けるでしょうか。それとも、聞く耳を持たず、無関心を決め込むでしょうか。私たちはどちらかを選び取らねばなりません。(4) 主イエスの声を聞くには、それを聞こうとする積極的な意志が必要です。多くの雑音の中から聞こえてくる主イエスの声を聞き取る繊細な精神が必要です。◆私たちが人間らしくあろうとする時、いかなる困難も、いかなる苦難も、死ささえも、主イエスと共に歩む限り障害にはならない、と言う声を聞かないでしょうか。主イエスこそ道です、真理です、命です。我らの歩みを灯す灯火です。主イエスこそ我らの人生を支える岩です。櫓(やぐら)です。勇気と希望の源です。

◇子供夏期キャンプのご案内◇

SMJ (Special Ministry to the Japanese)主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が今年も7月10日から22日までシェルター島(ロングアイランド)で行なわれます。キリストの愛を土台とするこのキャンプは今回で27回目、プログラムやカウンセラーとの交流を通じて子供たちがキリストの愛に触れる場所として大いに用いられています。費用は子供1人1300ドル。5月14日(土)10時よりJAUCで説明会が行われます。チラシが教会にありますので、お子様のおられるご家庭へお渡し下さい。ディレクターは吉松純先生です。

◇東日本大震災関連のニュース◇

■被災者のための献金 東日本大震災の発生から早くも2ヶ月近くが経過しました。3月11日以来JAUCに寄せられた被災者支援のための献金は4月30日現在で1万1373ドル50セントです。また、復活祭の献金の25%にあたる1256ドルも復興支援のために用いられることになっておりますので、合計1万2629ドル50セントが寄せられたこととなります。これらの献金は等分され、合同メソジスト教会並びに米国改革派教会の救済局を通じて被災地支援のために用いられます。数日以内に送金される見通しです。今後も寄付を受け付けており、定期的に取りまとめて教団へ送る予定です。現在も約12万人もの人々が避難生活を送っている状態ですので、長期的な支援が必要です。

引き続きご協力下さい。なお、震災による現在の被害状況は、死者1万4841人、行方不明者1万63人、負傷者5277人、全壊家屋7万7174戸にも達しております。

■山本牧師の報告 米国改革派教会のアジア宣教局で働かれている山本アンドリュース師が3月に日本へ行かれ、同教団のキスト岡崎師らと共に石巻などの被災地で食料の配布などにあたれました。山本師は5月1日午後、JAUCで集会を持たれ、被災地の現状や教団による支援活動の内容について詳しく話して下さいました。避難所にいる被災者の多くは、水や食料などは行き渡っているようですが、「一刻も早く通常の生活に戻れるようになりたい」というのが最も切実な願いとのこと。被災地で撮影された写真もパワーポイントで多数見せて下さいましたが、家の屋根に車が乗っていたり、更地のようになった住宅街の映像もあり、津波の恐ろしさが生々しく伝わって来ました。JAUCの元牧師で、現在横浜で宣教師をされているネイサン・ブラウネル先生も支援のために東松島市などへ行かれたとのこと、その際撮影された先生の写真なども映されました。

■日曜学校も協力 4月10日、ダウントウンの聖マークス・イン・パウリー教会において震災孤児支援のためのイベントが「NYママの会」の主催で行われ、JAUCメンバーも同イベントのためにおはぎを作りました。直ちに完売したそうです。日曜学校の先生方、子供たちもイベントに参加しました。◆なお、NYの日本領事館のサイトには、被災者支援のためのチャリティーイベントをリストアップしたページがありますので、ご参照下さい。

■佐藤彰牧師が避難中 2006年の第1回ファミリーキャンプで講師をされた佐藤彰先生の教会(福島第一聖書バプテスト教会)が原発に近いため閉鎖され、先生も信徒の方々も他県へ避難中です。お祈り下さい。先生が書かれている「避難生活レポート」が同教会のサイトに掲載されています(www.f1church.com)。大変心を打たれる深い内容ですので、是非ご覧下さい。

◇お知らせ◇

■会衆集会のお知らせ 建物修復工事の進捗状況などについて報告する会衆集会が6月12日(日)午後1時に教会で持たれることになりました。どうぞご参加下さい。

■[理事会から]新牧師招聘に向けて 鈴木先生が7月末で牧師職を離れられますので、新しい牧師先生を早急に探さなくてはなりません。理事会は5月7日のミーティングでこの件について詳しく話し合い、8月まで準備期間が大変限られているため、牧師招聘のプロセスは理事会で直接担当することにいたしました。過去2年の間、牧師招聘委員会の方々が副牧師を探すために、教団のシステムやNY地域の牧師先生の勤務体系などについてリサーチして下さいました。今回、副牧師ではなく本牧師を至急探さなくてはならなくなりましたので、状況が変わってしまったのですが、理事会はこれらのリサーチの結果を参考にしてプロ

日米合同教会月報70巻2011年5月号

セスを進めていきたいと考えております。招聘委員会の方々に心から感謝します。なお、理事会は今後もプロセスの進み具合について会衆の皆様へ定期的にお知らせする予定です。

■**メモリアルサンデー・墓参会のお知らせ** 5月29日はメモリアル・サンデーです。礼拝の間、過去1年の間に天に帰られた会員、親族、友人の方々を偲び、白いカーネーションを献花します。牧師先生がこの方々のためにお祈りを捧げて下さる予定です。帰天された方々のお名前をプログラムに掲載したい方は、年齢、ご命日を5月24日までに教会事務所までお知らせ下さい。◆**墓参会のご案内** 日系団体主催による恒例の墓参会が5月30日、マウントオリベット墓地並びにサイプレスヒル墓地で行なわれます。両墓地への参列には、日系人会が提供されているバスをご利用ください。事前の予約が必要となります(問合せは212-840-6942まで、バス代は15ドル)。10時に日系人会前を出発し、まずマウントオリベット墓地を訪れ、その後バスでサイプレスヒル墓地へ移動します。サイプレスヒルには日米合同教会の共同墓地があり、牧師の鈴木先生がメモリアルサービスを行なって下さる予定です。

■**春の大掃除** 第2回目の教会の大掃除が5月14日(土)に持たれます。今回は特に3階・4階を清掃します。午前・午後の2シフトを組む予定ですので、どうぞご協力下さい。

■**聖書の学び** 鈴木先生による聖書の学びの会が5月15日(日)から再開されます。旧約聖書の物語などについて深く学んで行く予定です。午後1時15分から教会3階で行なわれます。

■**賛美歌ワークショップ** 5月29日(日)午後鈴木エリザベス姉が「賛美歌ワークショップ」を行なわれる予定です。新しい英語賛美歌集をもとに、賛美歌をうたことでそのように礼拝のために心を整えるべきか、どのような歌があるかを学びます。

■**ワールドビジョンへのサポート** 婦人会は3月から、ワールドビジョンを通じて第3世界に住む子供の養育・教育費を支援し始めました。このほど同団体から、支援を受けている子供のプロフィールが届きました。タンザニアの女の子、ザムザムちゃんです。

■**春のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」が6月1日から始まっております。時刻は毎週水曜日の午後7時からです。8月3日まで合計13セッションが予定されています。詳しくは丸橋ダウンズ理加姉まで。

■**JAKUの伝道集会在教会で** 日本人・韓国人合同で日本人伝道のために働かれているJAKU(Japan Korea United)が、6月2日(木)午後7時半からJAUCで伝道集會を開催します。メインスピーカーの李盛愛姉は(リ・ソンエ姉)は、元ヤクザから劇的な回心を経て一転牧師になられた中島哲夫先生(中島克範牧師のお父様)の奥様です。大変興味深いお話と思しますので、是非ご参加下さい。なお、5月29日午後1時45分からニュージャージーのLove Joy Peace Churchで、30日午後8時からUPS祈禱会

(Urban Prayer Station, 153 W 36th St. 3rd Fl., between Broadway & 7th Ave)でも伝道集會が予定されており、こちらでは中島哲夫先生がお話しして下さる予定です。

■**教会図書** 「祈りのリクエスト」に名前が載っている小口愛ちゃんは、アトランタ・ウェストミンスター日本人教会にいる9歳の女の子で、ミトコンドリア病という難病と戦っています。このほど、愛ちゃんのお母様の小口ちひろ姉の詩集『君は愛されるため生まれた』がいのちのこば社から出版され、教会図書にも1冊届いております。愛ちゃんへの思い、神様の恵みへの信頼などがひしひしと伝わって来る素晴らしい本です。ぜひご覧下さい。

◇メンバー関連◇

■**パトラ姉の帰天** ブルックリンにお住まいで、長年JAUCの会員であられたローラ・よし子パトラ姉が2月4日、73歳のご生涯を終えられ天に召されました。パトラ姉はお元気なころは婦人会にもよく出席して下さいました。ご主人様のフィリップ氏並びにご遺族様の上に主の慰めと平安がありますように。

■**大村兄の帰天** 4月19日、ジューン・ゴールドバーク姉のご兄弟の大村ジョージ博士がアラバマ州バーミングハムで帰天されました。メモリアルサービスは5月23日に同地で行なわれます。

■**桑山姉の記念礼拝** 3月21日に帰天された桑山あや姉のメモリアルサービスが6月25日(土)午後教会で行なわれます。

■**今戸姉が卒業** 今戸ちづ子姉はこのほど、ニューヨーク神学校(New York Theological Seminary)での2年間のクリスチャン・ミニストリー・プログラムを無事終えられました。5月21日に卒業式が予定されております。おめでとうございます。

◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並に次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(ウェストミンスター日本人教会)神塚アサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(オネオンタ)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、保坂田鶴子、湯沢キミ諸兄姉

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

| | | |
|-----------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4土1時 | 園田姉宅 |
| SG 2. 日本人女性の会 | 第2火11時 | 日下部姉宅 |
| SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会 | 第2日2時 | 教会(春日姉) |
| SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 | 第4日2時 | 教会(小林姉) |

日米合同教会月報70巻2011年5月号

SG6. 日本語「証しと祈りの会」
SG7. 英語での学びの会

毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)